

沼津市

明治史料館通信

1996. 4. 25 (季刊 年4回発行) Vol.12 No. 1 通巻第45号



昭和10年代の金岡産業組合
(中山さか江氏提供)

産業組合

現在の農協は戦前は農業会といつた。農業会は昭和十八年(一九四三)に農会と産業組合とが合併してできた。農会が地主的な農政指導団体だったのに対し、産業組合は信用・販売・購買・利用を主要業務とし現在の農協に近い性格だった。明治三十三年(一九〇〇)に公布された産業組合法に基づき全国的に設立されるようになった。沼津地域の例では、金岡村が大正元年(一九一〇)、西浦村の江梨が同四年、同村木負が同七年、同村久連が同十一年、浮島村が同十四年に設立されている。昭和十年(一九三五)時点、沼津市には沼津市信用組合・沼津市購買組合・沼津市販売購買利用組合・沼津市利用組合の四組合があった。

昭和恐慌下から戦時下には一層上からの組織化が促進された。昭和十六年度の産業組合駿東郡沼津市部会の経営方針には、時局認識の徹底、部落組織の整備充実、国債の消化、販売の統制などがうたわれていた(『静岡県史資料編20近現代五』)。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

42

沼津商社会所

沼津兵学校を管轄した静岡藩軍事掛の幹部が設立した金融・回漕を業務とする会社に沼津商社会所があった。

江原素六の自叙伝『急がば廻れ』

(一九一八年刊)には、阿部潜・

立田彰信(政吉郎)らとともに「銀行のやうなもの」を設立したとあり、その内容や目的については以下のように述べられている。「沼津に本店を置いて、清水、横浜、東京などに支店を設け、蒸気船の一艘も所有して、さうして奥州の米を東京に運び、或ひは東京のものを彼地に運び、或ひは為替を取組み又は荷物を抵当で金を貸すと云ふやうな事を始めて、段々金が殖えれば、後に廢藩置県になつても小学校、兵学校を永遠に維持することが出来る」と云ふ理想であつた。」

これとほぼ同じ記述は、江原の他の伝記類にも共通しており、『沼津市誌』にも踏襲された。

沼津商社会所については『沼津市誌』中巻(三六四―三六九頁)でより詳細に説明されている。要

点は以下の通りである。

①明治二年末に設立された。

②徳川家から借用した八千九百五十円が資金だった。

③本店は沼津川廓町に置かれた。

④明治三年(一八七〇)十二月には八百両、四年五月には六百両

余の純益金を計上していた。

⑤明治四年政府から閉店を命じられ、三河屋福松に事業を継承させた。

⑥廢藩後は岳東軒と改称し、質業

や舶来品販売などを行った。

⑦岳東軒には、頭取中川冬得、副頭取大野寛一、支配人高橋晋平

ら、元軍事掛幹部が就任した。

⑧岳東軒は商社会所以来の不良債

券に苦しみ、明治十一年(一八七八)には解散した。

『市誌』の記述は、典拠が明記

されていない部分もあるが、主に

大野寛一が残した文書をもとに叙述したらしい。しかし現在それらの史料の所在は不明である。

渋沢栄一の主唱により静岡に商

法会所が設置されたのは明治二年

(一八六九)一月。場所は紺屋町

の元代官屋敷で、四月には清水に

も出張所が置かれた。

沼津商社会所は静岡の商法会所

にならつたのではないかとする文

献もあるが(市川良策「明治期に

おける沼津の金融機関」『沼津史

談』第6号)、以下に掲げる史料に

よると沼津には静岡に先立つ明治

元年十月に設置されたことがわか

る。

一 十月十一日御城御殿へ被召

出和田屋伝兵衛 油屋為次郎

鈴木屋与兵衛 陸軍局生育方高

藤之進様より今般商法御取立ニ

付所存可申上旨被仰渡同十三日

右三人より葦屋喜兵衛江戸屋三

郎左衛門兩人加入仕度旨申上候

処早速御聞届ニ而同日夕方被召

出被仰付候御相談之上商法規定

書奉差上候依之上土町江戸屋直

右衛門家屋敷造作御代金四百両

ニ而御買上ケ商社会所開店いた

す

一同廿八日右五人御召ニテ陸軍

生育方御用達被仰付生育方頭取

立田政吉郎様より御書付被下候

陸軍生育方御用達申付之

和田屋伝兵衛

(間宮喜十郎編「沼津史料 第二」

明治二十四年)

これによれば、①和田伝兵衛・

市河為次郎(油屋)・鈴木与兵衛・

足助喜兵衛(葦屋)・坂三郎左衛門

(江戸屋)の沼津宿の豪商五名が

御用達に命じられたこと、②上土

町の坂直右衛門宅が買取され会所

とされたこと、③陸軍生育方頭取

立田彰信から辞令が下されたこと

などがわかる。

生育方廢止後、高藤三郎(藤之

進)は軍事俗務方頭取、立田は開

業方物産掛となり、上京後は二人

とも大藏省に出仕した。いずれも

経済通の人物だったらしい。

豪商を御用達に取り立てたのは

静岡の場合と同様である。経営自

体が彼らが関与したのかはわから

ないが、明治政府から「商売をす

るのは武士の体面を汚すので廢業

せよ」というクレームが付けられ

たこととどのように考え合わせたらよいであろうか。

他に沼津商社会所の事業の実態を示す史料はほとんどないが、江原・阿部・藤沢次謙ら、軍事掛幹部たちがそのことに携わっていたことは断片的に伺うことができ、たとえば明治三年閏三月四日付で藤沢が江原にあてた書簡(『江原素六旧蔵明治大正名士書簡集』収録)には、阿部が突然鹿児島藩へ御貸人として派遣されることになったのに対して職務の中断を危惧する中で、「過日も御相談仕候商法其外之関係等」「会計局より屢々内話も有之候間」云々という文言がある。「商法」とは商社会所の業務のことと推測できる。

勝海舟の日記(『勝海舟全集』19)には、明治五年(一八七二)三月十三日の条に浅野(氏祐)・服部(常純)へ「商法会所金の事等申し遣わす」とある。静岡の商法会所は明治二年九月には常平倉と改称されているので、これは沼津商社会所のことではないかと想像される。

いずれにせよ実態は謎である。

江原素六とその周辺 <25>

宇都宮三郎と江原素六

当館所蔵の江原素六文書の中に以下のような書簡がある。

謹啓時下春暖之候益御健勝慶賀之至りに奉存候、陳者今回東京府知事よりの委嘱に応じ本会に於て故工部省技監宇都宮三郎氏の功績并に履歴事項を取調候事に相成候に就ては貴下には故人と御別懇之御間柄と拝承致居候に付、此際参考資料として御記憶の点に就き御高話相伺候か又は御所蔵の御記録等拝借之義御許容被下候は、忝く奉存候、何れ不日本会より罷出可申候間、御多忙中乍恐縮万事拝趨者へ御申伝へ被下度希望仕候、以上承諾相仰度願用迄得貴意度如斯に御座候拜具

大正九年四月卅日

工学会々長工学博士男爵

古市公威

江原素六様

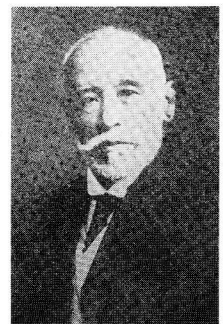
差出人の古市公威(一八五四

〜一九三四)は、姫路藩の出身。

大学南校に学んだ後、文部省から



宇都宮三郎



古市公威

フランス留学を命じられ土木工学を専攻、帰国後は東京大学工科大学教授、同学長、貴族院議員、枢密顧問官などを歴任した人物。

この手紙は、古市が会長をしていた工学会が東京府知事の委嘱を受け、宇都宮三郎という人物の業績を調査することになり、江原にその協力を求めた依頼状である。

宇都宮三郎(一八三四〜一九〇二)は、尾張藩から幕府の蕃書調所に出仕した洋学者で、「化学」という用語を最初に採用したことで知られる。維新後新政府に任せ、工部省でセメント・耐火煉瓦の製造などを手掛けた。その他、窯業・醸造・炭酸ソーダ等の研究を行って化学工業の先駆者である。

この手紙では江原と宇都宮が懇意の間柄だったとしているが、二人にどこで接点があったのか明確

にはわからない。ただ、宇都宮は旧幕時代、海陸軍兵書取締役・講武所出役といった役職にもあったことから、幕府陸軍の士官である江原と面識があったのかもしれない。また、幕府瓦解後、宇都宮は

東京に残ったが、沼津兵学校の教授となっていた蕃書調所・開成所時代の同僚桂川甫策・渡部温らが静岡藩に出仕することを勧めたといういきさつがある。しかし宇都宮は病気を理由に東京を離れなかった(『宇都宮氏経歴談』)。このことに江原が関与していたかどうかはわからないが、宇都宮が沼津兵学校につながる人脈にあったことは間違いない。

江原の日記には「宇都宮三郎先生病氣見舞として来る」(明治17・4・18)といった記述があり、二人の交友関係を伺わせる。

お知らせ欄

◎沼津市明治史料館史料目録
17・18の刊行について

史料目録17『井出深沢家・多比山田家文書目録』(B5版、一〇八頁、頒価一〇〇〇円)、18『沼津兵学校関係人物資料目録』(B5版、一三四頁、頒価一〇〇〇円)を刊行しました。当館所蔵の史料検索にご利用いただけます。

◎『沼津市博物館紀要20』の刊行について

〈体裁〉B5版、75頁
〈頒価〉一四〇〇円
〈内容〉瀬川裕市郎「縄文土器の胎土分析II」、川口和子「沼津の町並みの移り変わり」、樋口雄彦「明治期ロシア正教の伊豆伝道」

◎ビデオ「戦国の城と沼津」の制作

館ロビーで放映しているビデオに新たに「戦国の城と沼津」が加わりました。市内に残る興国寺城や三枚橋城、長浜城について、戦国時代の郷土史を織りまぜながらやさしく紹介したものです。時間は約十分。

◎ゴールデンウィーク中の開館について

休館日は4月30日(火)、5月7日(火)です。これ以外の日は開館します。

◎5月19日は無料開館日

5月19日(日)は江原素六が亡くなった日です。墓前では江原素六先生顕彰会による記念祭が開かれます。当館は無料開館します。

◎平成7年度の主な資料貸出先

東海大学開発工学部フェスタあしたか実行委員会(江原素六写真パネル) / 浮島地区社会福祉協議会(戦時下資料) / 豊橋市二川宿本陣資料館(沼津宿・原宿関係資料) / 県史編さん室(写真フィルム等)

◎館職員の人事異動について

四月一日付で館長(社会教育課長と兼務)山本啓司は人事課長へ異動、代わって匂坂信吾(前御用邸記念公園管理事務所長)が社会教育課長兼沼津史料館長として着任しました。今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

史料館の図録で沼津の歴史がわかる

浮世絵に描かれた沼津	900円
沼津の国学	900円
沼津藩の人材	1,000円
沼津市域にみる日清・日露戦争	1,000円
愛鷹牧	1,100円
ぬまづ江戸時代図誌	1,000円
沼津市のなりたち	1,000円
沼津兵学校の群像	900円
昭和の戦争と沼津	1,000円
写真・史料にみる占領期の沼津	1,000円
江原素六生誕百五十年記念誌	2,500円
沼津案内(復刻)	200円
沼津之葉(復刻)	300円



史料館でお求めになれます。

■史料館は
タイムカプセル
史料を未来に
伝えます

沼津市明治史料館通信 第45号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂三七二-1
電話 〇五五九-二三三三五
FAX 〇五五九-二五三〇一八